

病院だより

平成22年8月1日発行

No.17

発行 市立小野市民病院
編集 広報活動委員会

〒675-1332 兵庫県小野市中町323 TEL 0794-63-2020 FAX 0794-63-3330 <http://www.hospital.ono.hyogo.jp/>

看護部長として



看護部長 高田としみ

4月から看護部長になりました高田です。よろしくお祈いします。

私はこの病院に入職して32年目になります。……年齢が分かってしまうのでしょうか？……

その間5年の主任経験を経て、整形外科病棟・手術室課長として8年間部署管理し、2年間の看護次長を経験してきました。主任の時は①自分ができないことを人(スタッフ)には依頼しない、課長・次長の時は、①問題が発生したときはできるだけ早く解決する ②いろんな問題から逃げない、を目標にしてきました。

私が看護部長となり、はや4ヶ月が経過しました。慌ただしく1日1日が過ぎ去り、あっという間の4ヶ月間です。2年間看護次長として看護部長の側で学ばせてもらい、多くのことを吸収したつもりでしたが、いざ自分が看護部長になってみると、その責任の重さに押しつぶされそうになります。

前任の小紫看護部長はいつも『看護師は患者様の代弁者であってほしい』と言われていました。

また、院内広報誌「ひまわり」の第20号では、『ある書籍には「看護とは温かい手」とありました。「温かい手は専門的な知識と判断力に裏づけされた手であり、信頼できる確かな手・技能であり、そして、その温かさは、生命をいつくしみ、健やかに、安らかにと祈るこころである。』と記されていました。今、自分が患者という立場になった時、このような温かい“手”をもって、正確で細やかな観察をしようとする“目”を持った、優しく、たくましく、暖かさを備えた看護師さんに看護を、と願うのは贅沢な希望でしょうか？きっと当院はそのような本質をもった看護師の集団であることを信じています。』と書かれています。

私が看護師になった約30年前と比べると、医療はずいぶん進歩し患者様から求められることも多くなりました。また、10年前と比べてみると当院の看護師の接遇も良くなり、退院患者様のアンケートでも感謝の言葉を伺うことができています。これも患者様からの提案や要望に対しては、真摯に受け止め“変えていこう”という組織作りができてきているからだと思います。これからも病院の基本方針に基づき看護部の基本方針は変えずに、患者様から信頼され選ばれる病院であり続けたいと考えています。

3年後の三木市民病院との統合病院であります北播磨総合医療センター設立に向け、慌ただしい日々が続いています。価値観の違う病院同士の統合であり、困難な事もたくさんあると思います。三木市民病院との違いに驚くことやうらやましく思う事も多いと考えられます。また、不安に思うことも多々あるでしょう。しかし、お互いの病院の良い部分を持ち寄り、すばらしい組織・病院になるように協力していかなければなりません。今後は人的交流を含め三木市民病院との話し合いの場を多く持つ必要があります。

看護部でも段階を追って交流を深めていきたいと考えています。そのためにも、今は“地固め”の時期であり、しっかりと足元を見て“今、自分たちにできることは何か”を考え、それぞれの看護師が目標を持って行動してほしいと考えています。また、看護部長としてそれぞれの看護師の目標が達成できるようにサポートすると共に、患者様に良い看護が提供できるように努めていきたいと思っています。



目次

看護部長として 1
医療最前線 2~3

着任医師の紹介ほか 5~6
禁煙啓発活動ほか 6

地域医療室だより 7
外来診察表 8